

平成28年度汚水処理連携セミナーを開催！

下水環境課

平成29年2月14日(火)エスポワールいわて(2階大ホール)において、県内各自治体の担当者や関係団体の職員約80名の参加による「平成28年度汚水処理連携セミナー」を開催しました。

本セミナーは、行政と関係機関が連携し、汚水処理事業について効率的かつ適正な整備、運営管理手法や課題解決などの情報共有を図ることを目的として毎年テーマを定め、平成14年度から汚水処理関係機関※が合同で開催しているものです。

岩手県では、東日本大震災の影響により汚泥の有効利用度が落ち込んでいましたが、近年は回復してきています。また、昨年度に改正された下水道法においては、汚泥を燃料や肥料として再生利用するよう努めることとされており、今後は一層の再利用化、エネルギー化が望まれています。

このような背景から、今年度は「汚水処理事業における汚泥処理」をテーマとして、石川県環境部の山根正義氏から、汚泥から発生するメタンガスを有効活用する先進事例を、一関市からは、集落排水事業における事例をそれぞれ発表していただきました。

今後もこのセミナーを通して汚水処理に携わる関係機関の連携を図り、衛生的で快適な生活環境の確保につなげていきます。



主催者代表挨拶

(公財)岩手下水道公社 青柳理事長

○当日の発表から

【事例発表】「メタン活用いしかわモデルについて【石川県の事例】」

石川県環境部環境創造課 生活排水グループ 専門員 山根 正義 氏

石川県で取り組んで行っている「メタン活用いしかわモデル」の仕組みと経緯について、珠洲市と中能登町の事例を挙げ、小規模処理場であっても、汚泥を集約しメタン発酵することで、ガス発電や汚泥の減量化が実施可能となることが紹介されました。

この取組に興味を持った自治体から、多くの質問が寄せられ、今後の汚泥処理を考えていくうえで非常に有意義な事例発表となりました。



【用語解説】

※「汚水処理関係機関」とは？

- 公益財団法人岩手県下水道公社（主催）
- 岩手県土地改良事業団体連合会（共催）
- 公益社団法人岩手県浄化槽協会（共催）
- 岩手県汚水適正処理推進会議（事務局：岩手県県土整備部下水環境課）